

西脇市議会

議長 林 晴 信 様

文教民生常任委員会
委員長 岡 崎 義 樹

子育てサークル有志との課題懇談会 報告書

日時:平成 30 年 1 月 24 日(水)午前 10 時～11 時 50 分

場所:茜が丘複合施設「みらいえ」

参加者:文教民生常任委員会(6名):岡崎委員長、中川副委員長、岩崎委員、
村岡委員、古西委員、吉井委員

総務産業常任委員会(3名):村井公平副委員長、寺北委員、村井正信委員

子育てサークル有志(11名):メンバーの意向により名前は公表できません。

主な内容

1. 就学前教育へのカリキュラムについて

- 平成27年7月10日の議員協議会の中で「28年度も継続してカリキュラム等を作成していく。この6年間で今幼稚園が行っている就学前教育と保育園の就学前教育・保育が認定こども園へ引き継がれていくものと現時点では考えている。」との教育委員会から答弁があった。約2年半経つが、就学前教育が予定通りに進んでいない。(子育てサークル有志)
- 西脇市が築いてきた幼稚園教育は、子どもの心の根っこを引き出す、子どもを主体とした教育を確立してきた。長い歴史のある就学前教育をしばざくら幼稚園と同様に全部の認定こども園にも取り入れてほしい。(子育てサークル有志)
- 就学前教育のカリキュラムは、6年間で引き継がれると考えているが、達成できないなら、達成するまで延長してほしい。また、8園あった幼稚園の園長先生にも指導者として関わってほしい。(子育てサークル有志)

2. 負担がかかる保育士の対応について

- 今年度はコーディネーターが各こども園に派遣されているが、保育教諭の研修の日数が少ない。
- 認定こども園では、19時まで子どもを預かっているが、カリキュラムに追われるなど、多忙な状況にある。保育士が不足していると思われる。(子育てサークル有志)
- 幼児教育に対応するため、14時以降は研修ができる体制を整えるなど、市内の公立幼稚園との差異が生じないように人的配置を行う必要がある。(子育てサークル有志)
- 10年間働いても手取り収入は20万しかない。県から就業手当が支給されているが、手元にはほとんど入ってこない状態である。(子育てサークル有志)

3. 小1プロブレムの対策について

- 昨年11月の重春小学校で行われた就学前健康診断の時、体育館での待ち時間が長く、子どもが走りまわる状況を目の当たりにし、学校生活や子どもたちへの対応等が心配になった。同時に小1プロブレムの言葉が頭によぎった。市として、小1プロブレム

の対策について、どのように考えているのか。(子育てサークル有志)

- 学校のしつけや指導力不足が少子化、核家族化、地域社会の崩壊につながっている。また、子どもたちが人と関わる力も不足している。基本的な生活習慣が確立されていないのは、保育園、幼稚園、小学校の教育内容がされていないことが原因とも言われている。小1プロブレムが西脇市でも起こるのではないかと、不安な気持ちである。(子育てサークル有志)

4. その他

- 一日のプログラムにお昼寝(12:00~13:30)がある。この時間が在園時間に占める割合が大きく、友達と遊ぶ時間が減少していることが残念である。
また、14時以降は延長保育となるため遊べない。もっと子どもたちが遊べる環境が必要である。(子育てサークル有志)
- 去年までは延長保育があったため8割の子どもたちが幼稚園に通っていたが、それがなくなり、多くの保護者はすごく怒っている。(子育てサークル有志)
- 幼稚園と保育園の良い所を合わせた認定こども園ができれば、西脇市がもっと注目され、引っ越してくる人が増加すると思われる。(子育てサークル有志)
- 移行期間の園児は実験台ではない。子育てを経験した保護者にしかわからない不安がある。(子育てサークル有志)

文教民生常任委員会協議会

日時:平成30年2月7日(水)9時30分~

「子育てサークル有志との課題懇談会」(1月24日)について、委員会として、今後どのような形で調査するかなどを含めて協議を行なう。

参加者:文教民生常任委員会(7名):岡崎委員長、中川副委員長、岩崎委員、東野委員
村岡委員、古西委員、吉井委員

傍聴:林議長、近藤議員

1. 委員の主な意見

- 参加者の多くがしばざくら幼稚園の保護者であり、就学前教育をもっと充実させてほしい、しばざくら幼稚園をもう少し延長してほしいという意見であったが、議会は5年で閉鎖することを議決している。認定こども園は、今までの就学前教育を引き継いでほしい。(岩崎委員)
- 現在、認定こども園で実施されている就学前教育カリキュラムについて、移行期間も含めて、その状況を確認する必要がある。(吉井委員)
- 認定こども園でのカリキュラムの進行状況について、保護者から反響、意見は全く聞いていない。懇談会では偏った意見が多かったが、指摘のあった教育の差が、しばざくら幼稚園と認定こども園のすべてではない。(吉井委員)
- 認定こども園の幼稚園部の昼寝時間の状況を確認すべきである。(岩崎委員)
- 参加者の属性の偏りが大きい。立ち歩き等は主観的な考えもあり、個性や強調性など、それぞれの育て方に差があって当たり前であり、数値では計れない。方向性を委員会

で示すことができるのか。(村岡委員)

- しばざくら幼稚園で実施されている3~4才児への教育はどのような状況なのか。本来、親の希望としては同じ地域の認定こども園に通い、同じ小学校に通わせたいという思いだと考える。(吉井委員)
- 認定こども園で午後2時までしばざくら幼稚園と同じ就学前教育のカリキュラムを行うことに無理はないのか。(東野委員)
- 認定こども園が開園して一年では、改善中の部分もあると思われる。社会福祉法人間でも差はある。(吉井委員)

まとめ

今回、子育てサークル有志との課題懇談会において、冒頭に記載の内容の意見等があった。この課題懇談会を踏まえ、文教民生常任委員会内で協議をしたところ、就学前教育のカリキュラムについて、開園後まもない状況の中で調査をするには、時期が早いのではないかとの意見、法人として地区で受けて運営しているが、保育教諭が少ない中で運営している現状であるとの意見、また、そのような厳しい中で研修やカリキュラムなどを展開し、各認定こども園でも努力をしている意見などがあった。

懇談会の意見と認定こども園の取組状況に鑑みて、文教民生常任委員会として、一定の期間、その動向を注視することとし、今回の課題懇談会の切実な声を西脇市教育委員会に伝えるとともに、就学前教育・保育のカリキュラムを実践し、できる限り早期に継承するよう申し入れる。

以上